

2016

新春特別インタビュー

鉄工機械業社一丸で築く 世界に羽ばたく固有技術



浜松鉄工機械工業協同組合
理事長 杉田 哲朗 氏

— 理事長の本業は自動車部品製造の杉田工業(株)ですね。

— そうですね。浜松城北工業高校を卒業してすぐに入社し現在は社長を務めています。

— 浜松鉄工機械工業協同組合との関わりは？

— 平成12年の役員改正から理事に就任しまして、それ以来という事になります。

— 理事長就任が平成25年という事ですが、任期は？

— 任期は2年で、今2期目に入りました。

— 理事長就任時ほどのような心境でしたか？

— 和久田前理事長からお話を頂き、身が引き締まる思いでしたが、精一杯やらせて頂くうと思いました。

— 理事の全面改選はしませんでしたが、これまでの方針を踏襲しながら、若い世代の理事を増やしています。

— 非常に新陳代謝のある組合なのですね。

— そうしなければ時代についていけませんし、役員全体がそういう意識が高く、協力して下さるのはありがたい事です。

— 組織の弱体化も見られ「組合」の機能が果たせず、組合としての存続が難しい時代になっていきますが、貴組合の加盟企業は多く、活発に活動されている秘訣は？

— 組合そのものが立派だという事ではなくて、会員の皆様が熱心に企業活動されている賜物であり、感謝の気持ちで一杯です。

— 浜松は輸出産業の多い地域であります。大手企業が海外に進出して、国内が空洞化し、リーマンショック、円高と激動の時代を経て経営環境が激変しています。仕事も海外に流れる中で、国内では苦勞されている企業も多いと思えますが、その中で中心となつて支えているのが規模こそ

小さくても固有技術を持った方々の力です。こういった方々の流出は地域にとって大きな損失となりますので、出来るだけ事業を継承して頂き、この地域の工業を守り、更に発展させていけたらと思います。

— 2015年は、どんな1年でしたか？

— 2014年4月に消費税が上がり、駆け込み需要で忙しい会員も多かったと思いますが、それ以降は工業関係の売上が低迷しました。

— 2015年は円が下がり、輸出が伸びるのでは？との期待もあったのですが、海外に工場が多い関係で生産が伸びず、消費税増税の反動を受けた1年でした。

— 製造業全般を見ると、大手企業を中心に業績も好調なイメージがありますが、実際は設備投資が少なく、内需が縮小して、中小零細企業にとっては厳しい1年でした。

— 大手企業に関しては、海外との連結決算に入っておられますので、国内単独で見ただけでは、やはり厳しいのではないのでしょうか。

— 自社としてはどのような1年でしたか？

— 可もなく、不可もなくですね。新しいお客様との取引も始まりましたし、これからの展開に期待したいです。

— 貴組合には多種多様な企業が集まっており、組織としても希有ですね。

— 非常に多くの業種が加盟しているのが私共の組合の大きな特徴です。会員同士がそれ

新春特別インタビュー 2016

それ意見を聞き、刺激を受け合せて勉強になっていくのではないのでしょうか。

―組合内での海外進出の状況は？

私の会社は直接海外に工場を持っていませんが、タイやインドネシア、ベトナムあたりの景気が低迷し、生産が落ちていくという事もあり、厳しい部分があると考えます。

―組合として海外進出をバックアップしていますか？

組合としての直接的な支援はありませんが、各企業毎の情報交換は盛んに行われています。

また、機械のメンテナンスや金型を取り扱う企業に関し

未来に輝く若き人材育成

―業界全体を見て、世代交代は進んでいるのでしょうか？

進んでいると思います。当組合でも、まずは若い人にも来て貰って、実際に組合の状況を見て判断して貰おうという気概でやっています。若い人は非常に熱心で真面目な方が多いので、有効に活用して頂ければ幸いです。

―今、新産業の創出や、脱下請という言葉が声高に叫ばれています。そのうちた動きは進んでいますか？

一部では新しい産業を推し進めたり、特許を取って事業をしている方もいます。

他にも、自社商品で勝負する方や、部品供給の部分で他社に無い技術を生かそうと研鑽を続けている企業は沢山あります。

ては、進出の補佐的なバックアップとしての役割もあると思います。

―組合の横の連携や加盟メンバーは大きいのですか？

そうですね。より多くの方に参加して頂いて、様々な情報を組合内に蓄積できたら良いと思います。

―大手で起きている M & A や合併などの動きが、今後は中小企業でも予測されます。組合の中でも業務提携的な動きはありますか？

産学連携のような新たな動きは勿論ですが、元々加盟企業が多いので、顔見知りも多く、そのような動きは自然発生的に起きていると思います。

―各社が自社努力を怠らない中で、組合の果たす役割も大きく変わりますか。新規入会者は増えていますか？

毎年数は増えており、今は 138 社あります。経営が苦しくなって組合を抜ける方は残念ながらありますが、自発的な入会希望者も少なくありません。

―ベンチャー企業は入会できますか？

勿論入れますし、実際、ベンチャー企業の入会実績もあります。お付き合いの幅を広げ、人間関係を築くために、組合の活動はとても意味のあるものだと思います。

―そうそうたる企業が入会されていますか？

非常に強い企業が多いと思います。これまで生き残っています。

- | | | | |
|------|-----|---|-----|
| 中川 | のり | 店 | 野店 |
| 北名 | 古屋 | 店 | 林店 |
| 名古屋 | 鳴海 | 店 | 田店 |
| 名古屋 | 東引山 | 店 | 新田店 |
| 半田 | 立 | 店 | 岡中店 |
| 知立 | 尾 | 店 | 吉田店 |
| 西岡 | 大樹寺 | 店 | 中津店 |
| 豊田 | 田 | 店 | 東津店 |
| アクロス | 豊川 | 店 | 東津店 |
| 豊橋 | 向山 | 店 | 殿場店 |
| | | | 伊東店 |

明けまして
おめでとうございます。



遊びコミュニケーション

イシグロ

(株)イシグロ本部
〒430-0907 浜松市中区高林4-8-13
TEL.053-473-3535 FAX.053-473-0305

いるという事は勿論ですが、組合の中で企業が成長し、人脈なども築かれていくのだと思います。

―企業同士が切磋琢磨しているのは素晴らしいですね。

経営者、事業者にしかならない悩みもあると思いますし、それを抱え込むのではなく、良き相談相手となり得る同志が集まった組織ですので心強いと思います。

―今、業界は人手不足と言え

るのでしょうか？
人手不足感はあるにありますが、実際、ただ人手だけを必要としている企業はないと思います。企業にとって必要な人材は、すぐに獲得できる訳ではありません。ある程度の育成期間が必要です。

新春特別インタビュー

2016

しかし、我々の業界は「ポリテクカレッジ浜松」や「浜松テクノカレッジ」と提携し技術系の人材を会員企業に紹介したり、就職後の研修体制も整っています。今までの歴代の理事や理事長の方々がこういったパイプを作って下さったのは、ありがたい大きな財産です。

―各業界が人材不足で悩まれています。学校との連携は魅力的ですね。

そうですね。これらの学校の就職率は、ほぼ100%ですが、そこに入学する人が減っているのも事実です。今後の事を考えれば、海外からの労働力の確保も必要となってくるかも知れません。

―但し、これは安易に研修生を受け入れようという意見ではなくて、しっかりと戦力となる人材を育てるという意味もあります。単にワーカーだけでなく、技術者の育成は今後も課題となるでしょう。

―技術の維持や継承は、企業としては当然やっていかなければなりませんね。

工業だけに限らず、あらゆる産業で一番恐ろしい事は、その技術が途絶えるという事です。一度途絶えたものを再生するのは本当に困難です。今の技術を維持し、更に発展させていく事は、日本の未来にとつてもとても大切な事だと思えます。

―ほとんどの会社が悩んでいる事ですね。単なる若返りでは解決しない問題だと思えます。

技術を伝える相手がより多

くいる事に越したことはないですね。

企業としては、現状に留まって満足するのではなく、あらゆるセクションで何か新しい事は出来ないか？常に革新的なアイデアを求めなければいけないと思えます。

―経営者として、非常にシビアに経営を考えていらっしゃいますね。

当然、企業は利益を出さなければいけないと思えます。それは、将来の利益を生み出す可能性のある雇用を守るためであり、新たな設備投資をするためでもあります。今後、これが続いていくのでしよう。

経営者に必要な視点

―先を見据えた視点が必要なのですね。

今、事業が上手くいっていない企業でも、決して悲観的にならないで欲しいと思えます。今は厳しい時代であるけれども、それを解消するために、これからどうするか？が大事なのです。自分の会社の将来のために今、何をすべきかを考えて実行する事が経営者必須の心得ではないかと思えます。

―その集合体である組合も、そういう意識で存在するべきだという事ですね。

単に数字だけではない部分も重要だと思えます。いくら小さな会社でも、そこにしか出来ない技術や商品があり、それが一番大切です。そういう企業を大事にしていける地

域に、浜松がなつていって欲しいです。

―先代の社長からは何か教育を受けられましたか？

先代の薦めで、静岡大学工学部の近藤一義教授（現豊田工業大学受託客員教授）から塑性加工を教わりました。

先生は、現場と学術は双壁であり、学問と経験則を合わせなければ新しい事は生まれませんという発想を持っていて2年間色々な研究をさせて頂きました。外の知識を得る事の重要性と、経営に必要なものを浜山学びましたね。

―非常に発想がシンプルですね。こういった考え方を組合の皆さんも取り入れていく事には意味がありますね。

―経営者にとつて一番大切な事は、予測能力です。将来どうなるだろう？という事を読める力を持つ努力をするかどうかだと思います。

―近い未来を予測する事は必要でしょうね。

経験が将来の邪魔をする事もあります。怖いですがそれと

―2016年はどのような年にしたいですか？

経営者ほもつと勉強しなければいけないと思えます。特に、若手経営者に向けた教育の場を一昨年から設けてきましたが、今年は更にその活動を深めていきたいです。また経営者が抱える具体的な問題の解決方法も含めた、実学としての勉強を提案していただける良いと思えます。

―今年も益々のご活躍を期待しています。